



TITLE:

京大広報 No. 413

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 413. 京大広報 1991, 413: 133-140

ISSUE DATE:

1991-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209253>

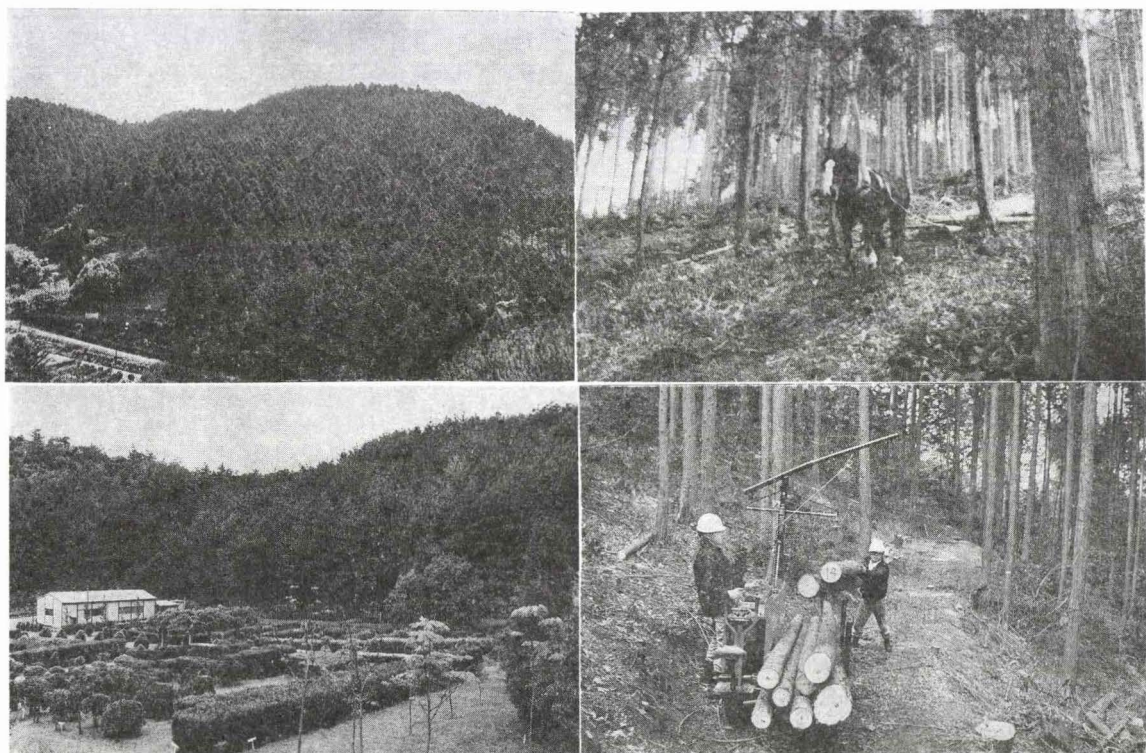
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 413

京都大学広報委員会



農学部附属演習林徳山試験地ヒノキ（65年生）造林地（左上）、マツ類の産地別造林地と緑化樹見本園（左下）、馬搬によるヒノキ間伐材搬出（右上）と林内作業車による間伐材搬出（右下）

—関連記事本文135ページ—

目 次

<大学の動き>

- 西島総長，イタリア共和国を訪問…………… 134
創立記念式典の挙行…………… 134

<部局の動き>

- 公開講座 文学部博物館「土器と石器と人間と」… 135

<紹介>

- 農学部附属演習林徳山試験地…………… 135

<保健コーナー>

- 進路選択のむつかしさ…………… 136

- 平成3年度文学部博物館春季公開展示…………… 137

- 訃 報…………… 138

- 学生将棋名人戦で優勝…………… 138

- 体育館附設プールの夏季利用…………… 138

- 「白馬山の家」の夏季開設…………… 139

- 「白浜海の家」の利用…………… 139

<コラム>

- 王様の出番

- 三面 鏡子…………… 140

＜大学の動き＞

西島総長、イタリア共和国を訪問

西島安則総長は、6月1日から、イタリア共和国における高等教育・研究機関の実情調査及び大学間学术交流協定に関する打合せのため同国を訪れ、6月10日帰国した。

今回の訪問は、本学とシエナ大学との学术交流に関する一般的覚書に基づき、シエナ大学創立750周年にちなんで開催された第1回シエナー京都シンポジウム“The Development of Science for the Improvement of Human Life”に参加する研究者とシエナ大学の関係者との懇談及びわが国とイタリア国との高等教育・学术研究について関係者と協議することを目的としたものである。

ローマでは、高等教育・学研究省の会議室で上院議員 Leareo Saporito 教授並びにローマ大学学長 Giorgio Tecce 教授その他関係者と高等教育・学研究の実情と課題について率直な意見交換を行った。

シエナ大学では、同大学の Luigi Berlinguer 学長はじめ、部局長、関係教官と懇談を重ね、並びに本シンポジウム出席の教官と今後の学术交流の進め方について意見交換した。6月8日には同シンポジウムの開会式に出席して、シエナ大学学長と共に開会の式辞を述べた。

なお、今回のシンポジウムの開催にあたっては本学工学部今西幸男教授が研究代表者となって文部省科学研究費補助金（国際学術研究—大学間協力研究）の交付を受けており、シンポジウムには本学の文学部、経済学部、理学部、工学部及び他大学の教官、研究者が多数出席した。



1991年6月3日ローマ、イタリア高等教育・学術省での会議



1991年6月8日シエナ、シエナ京都シンポジウムの開会式で式辞を述べる西島総長、右隣が Berlinguer シエナ大学長

創立記念式典の举行

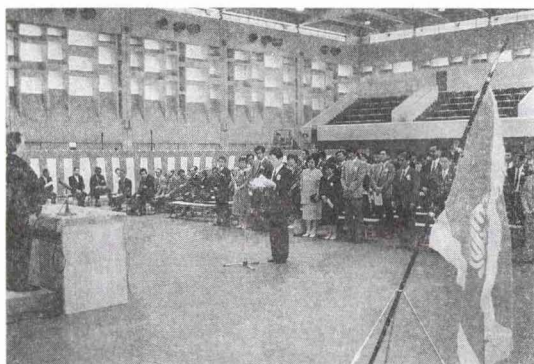
6月18日（火）本学創立94周年記念式典が、名誉教授、部局長等関係者多数の出席を得て、本学総合体育館において举行された。

式典は午前10時に始まり、総長式辞、永年勤続者代表の答辞があり、本学の発展を祈念して、渡邊庸一郎名誉教授の発声により万歳三唱が行われ、午前10時50分終了した。

本年の30年勤続者は76名、20年勤続者は90名、計166名である（被表彰者氏名は6月21日の学報第4397号に掲載されている）。

総長は式辞の中で、これら永年勤続者の労をねぎらうとともに、本学創設の経緯及び本学の教育研究体制等の現況について述べ、続いて、諸外国でも高等教育・学研究について真剣な議論が行われている昨今、本学でも大学が果たすべき役割、大学が何をなすべきかについて真摯に取り組む必要がある旨論じた。また教育と研究の関係の新しい在り方についても論及し、おわりに、学問の伝統、学風の継承、ダイナミックな研究教育の発展と師弟の絆の強さが、学問の府の力である旨述べた。

引き続き午前11時30分から京大会館2階会議室で名誉教授懇談会が、また午前11時50分から同会館1階講演室及びラウンジで永年勤続者祝賀会がそれぞれ開催された。



創立94周年記念式典

<部局の動き>

—公開講座—

文学部博物館「土器と石器と人間と」

文学部博物館では、平成3年度春季公開展示(137ページ参照)にあわせ、4月27日から6月8日までの間、4回にわたり土曜日の午後1時30分から4時まで、講演室において第8回公開講座「土器と石器と人間と」を開催した。

この講座は一般市民を対象とし、遺物を扱う考古学の成果を中心に、先史時代の文化や社会について考えることを目指したものであり、72名が受講した。

講義題目、講師は次のとおりであった。

道具をつくる動物=人間	文学部	小野山 節
陶器以前のやきもの	文学部	清水 芳裕
先史時代研究の黎明	文学部	菱田 哲郎
西日本の縄文土器	文学部	千葉 豊
		(文学部)



<紹介>

農学部附属演習林徳山試験地

徳山試験地は、昭和6年1月徳山町遠石の町有保安林36haに徳山砂防演習地として設置され、昭和17年3月徳山市笹葉ヶ丘へ移転し、徳山試験地と改められた。さらに昭和41年3月徳山市の緑化公園事業にともない、この地が徳山市営周南緑地公園、万葉の森となったため、現在地(徳山市徳山鉢窪)に大蔵省から所管換を受けて移転し、今日に至っている。その面積は41.85haである。

当試験地は、JR山陽新幹線、山陽本線徳山駅から約5km、徳山市街地の北東郊外で、海拔102~351mに位置し、比較的急斜面が多い。地質は大部分古生層に属し、基岩は強度の変成作用を受けた緑色片岩で、土壌は比較的深い、やや乾燥気味である。気象条件は、瀬戸内型気候で、冬は積雪少なく、降雨は6~7月に集中し、早春期と夏期の乾燥が著しい。年平均気温は15.2℃、年平均降水量は2,030mmである。

本試験地はシイ、カシ類、タブ、クロキなどの常緑広葉樹を主な植生とする照葉樹林帯に属している。しかし、本試験地面積の約半分を占める天然生林は都市近郊であるため、アカマツに落葉広葉樹のコナラ、クスギ、ヤマザクラなどの混交する二次林となっている。

樹種構成は落葉広葉樹が3分の2を占め、残り3分の1が天然生アカマツ及び常緑広葉樹である。さらに近年マツクイムシによる被害で天然生アカマツの大半が消失したため、植物遷移の段階からみると、薪炭林利用の二次林から照葉樹林への回復過程にある森林である。

人工林は、本試験地面積の約49%を占め、昭和初期に植えられた樹齢55年~65年の林と、所管換の後に植えられた林に分けられる。以前の造林はスギ、ヒノキで、保育管理が不十分であったため形質の悪いものが多い。一方試験地設定後は、瀬戸内海沿岸の森林育成の目的に沿って、マツ類、スギ及びヒノキの造林を行い、マツ類については、産地別、母樹系統別あるいは外国産のマツ類を植栽して、系統間の生育状態を調査すると共

に、近年激増しているマツクイムシによる被害の対策として、抵抗性品種、個体の研究材料としている。

また、スギ、ヒノキについては、高密度植栽、集約的保育作業及び将来高品質材生産のための実験材料として植栽し育成されている。

現在当試験地で行われている試験研究項目は、

- 1) 天然林の植生遷移に関する研究
- 2) マツ類の育種学的研究
- 3) ヒノキ林の取扱いに関する造林学的研究
 - ① ヒノキ林樹下植栽試験
 - ② ヒノキ林の間伐と施業に関する研究
 - ③ ヒノキ林の物質循環に関する研究
- 4) 間伐材の伐出方法について

等である。

本試験地の施業目標は、瀬戸内海沿岸地方に共通した温暖で、比較的乾燥しやすい気象条件下での森林の造成や緑化樹の育成にある。この他、林学、林業における多様な研究に利用できる状態を可能な限り維持していくことに重点を置いている。

最後に、本試験地周辺の観光地には、秋芳洞、秋吉台、津和野、萩、青海島等がある。なお、本試験地見学の手続きや情報、資料は演習林本部計画掛、または徳山試験地（〒745 山口県徳山市徳山鉢窪769 0834-21-7120）に照会されたい。

（農学部附属演習林）



農学部附属演習林徳山試験地事務所

保健コーナー

進路選択のむづかしさ

人生の幸福を決定するかの如く考えられているのが、教育における進路の選択である。幼少期からの塾通い、大学別に入試問題の傾向を分析し、希望大学への合格対策を教えることをうたい文句とする、予備校を頂点とする受験産業の繁栄ぶりが、このことを物語っている。

進路選択の中でも、特に、大学並びに学部・学科の選択が重要と考えられているが、その志望大学・学部・学科の選択となると、案外あいまいな状態で、自己の内を見つめること少なく、社会的人気など、外部の通説的価値基準に従って決定されていることが多い。だから志望専攻の選択よりも、大学の選択が優先し、専攻内容は合格の可能性で決められる。その結果は、早ければ合格直後からはじまる入学先への不満、再受験・転学部・転学科等への迷いの発生となる。全般的な無気力状態に陥ることも少なくない。

平成2年度中に、学生懇話室には145名が進路変更の相談に訪れた（来談実人員の約40%）。心理的問題のカウンセリングの過程で、進路変更が話題になることも多かった。ちなみに平成3年度の転学部・転学科を希望して、資格照会した学生は、重複志願があるものの、延862名を数えている。このうち実際に出願した者は178名、許可され志望を達した者は106名で資格照会者の約12%に過ぎなかった。

これまでの筆者たちの調査によれば、進路変更を志望して、その希望を達成することのできなかつた学生の、大学並びに授業等への不満は高まる。「どうせ人生とはこんなものさ」と、その現実を受入れ、「では今の所で頑張っていこう」ということには、なかなかならないようである。勉強場面からの逃避、自閉化、達成できなかった志望に固執しながらの無気力等、心理的問題の発生をみることも少なくない。

もちろん転学部・転学科志望のすべてが、あいまいな進路決定に原因するものばかりではない。上回生のそれには、入学後の読書・授業・ゼミ等における教官との接触を通じての興味・関心領域

の変化、進路の迷いからの脱却などを理由とする場合もある。これらは望ましい積極的進路変更志望、新しい進路決定と言うべきであろう。

進路変更志望の達成は、一般に満足感と共に、勉強場面を含め自他の受容傾向を強め、意欲を高めるが、この選択に際しても、入学時の問題が未解決の場合、新しい所属場所に移っても、それ以前と同様に何とはなくの不安全感や無気力に陥る者がいることは心すべきことであろう。

大学生の誰もが、いずれ直面しなければならない今一つの進路選択に就職にかかわる問題がある。このきびしい社会への門出に際しての選択は、それまでの間接的選択とは異り、直接自分の将来を左右する重要な選択である。ある者はさまざまな理由のもとに、この問題との対決を避け、留年を考えたりする。将来の不確定性故に、さまざまな可能性を切り捨てることができず選択不能に陥る者もいる。

進路選択とはあいまいさを残しつつ、かくありたいと願う自己同一性にかかわる選択である。人はその結果を自己の責任において引き受けてゆかねばならない。そのためには、可能な限りの対象の観察分析と、じっくり内を見つめ、ある時果敢に責任ある決断をなすべき自我の強さが必要である。

(保健管理センター そわなか とおる 組中 達)

平成3年度 転学部・転学科者数 平成2年度1回生

転入 転出	文系学部	理系学部	計
文系学部	40	0	40
理系学部	17	6 (6)	23 (6)
計	57	6 (6)	63 (6)

平成2年度2回生

転入 転出	文系学部	理系学部	計
文系学部	6	1	7
理系学部	15	16 (5)	31 (5)
計	21	17 (5)	38 (5)

平成2年度3回生以上

転入 転出	文系学部	理系学部	計
文系学部	2	0	2
理系学部	3	0	3
計	5	0	5

() 内は転学科者の内数

平成3年度文学部博物館春季公開展示

文学部博物館では、6月8日(土)正午で平成3年度春季公開展示を終了した。展示内容、入館者数は次のとおりである。

また、本春季公開展示にあわせ、4月27日から6月8日までの間4回にわたり土曜日の午後公開講座「土器と石器と人間と」を開催した。(135ページ参照)

期 間	展 示 の 名 称	入 館 者 数				
		一 般	学 生	職 員	特 別 観 覧	計
4/10~6/8	先 史 時 代 の 北 白 川	人 1,570	人 709	人 244	人 458	人 2,981
	東大寺の行事と文書・日本の肖像画					
	日本古代文化の展開と東アジア					

(特別観覧とは学術研究、視察その他博物館運営研究及び施設見学等である。)

計 報

学生将棋名人戦で優勝

山田 精作 文部技官

文部技官 山田精作氏は、さる6月4日逝去された。享年59。

同氏は、昭和40年本学工学部建築学教室に就職以来、26年余りの永きにわたり機械印刷業務一筋に尽力され、その卓越した高度な印刷製作技術は高く評価されてきた。昭和60年には京都大学永年勤続者表彰（20年勤続）を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（工学部）

平成3年6月5日（水）、6日（木）の両日に東京・千駄ヶ谷の将棋会館で行われた第47回学生将棋名人戦で、本学将棋部の奥本 心君（法学部3回生）が優勝した。また、同部の野崎恭夫君（理学部2回生）が準優勝した。

（学生部）

体 育 館 附 設 プ ー ル の 夏 季 利 用

本学の学生及び教職員は、体育館附設プールを下記により利用できます。

なお、利用可能日等の詳細については、学生部学生課体育掛（西部構内総合体育館内、電話学内2590）に照会して下さい。

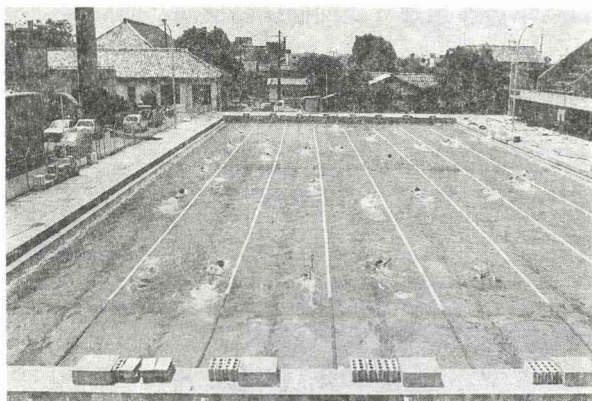
記

期 間 7月11日（木）～8月31日（土）（この間の20日程度）
ただし、日曜日は使用できません。

時 間 正午から午後2時まで

（注意）

1. 利用に際しては、必ず職員証または学生証を呈示して下さい。
2. 都合により使用をお断りする日があります。



本学総合体育館附設プール

（学生部）

「白馬山の家」の夏季開設

本学の学生及び教職員の厚生施設として、例年夏季及び冬季に開設されている「白馬山の家」を、今夏も下記により開設します。

この山の家は、中部山岳国立公園白馬山麓の杵池高原にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、登山及び避暑等に最適です。

なお、建物は山小屋風の木造地上2階、地下1階建て、間取りは1階が食堂兼談話室、2階が寝室、地階が浴室、乾燥室等になっています。

記

1. 名 称 京都大学^{はくば}白馬山の家
2. 所 在 地 長野県^{あづみ}北安曇郡^{おたり}小谷村^{ちぐに}大字千国字柳久保乙869の2
(交通機関)
JR大糸線「白馬大池駅」下車、松本電鉄バス「親の原」下車、徒歩約20分
3. 開設期間 7月10日(水)～8月20日(火)
4. 収容人員 26名
5. 所要経費 1人1泊 使用料80円、ほかに食費等実費程度
6. 申込み及び利用に関する詳細
体育会事務室(西部構内総合体育館内、電話 学内2574)に照会してください。

「白浜海の家」の利用について

本学の学生及び教職員の厚生施設として、「白浜海の家」を下記のとおり通年開設しています。

この施設は、三段壁をはじめ千畳敷・円月島など風光明媚な南紀白浜にあり、海に近く、夏は海水浴に最適のところです。

また、「海の家」のある理学部附属瀬戸臨海実験所構内には500種以上の海の生物を集めた水族館があり、有料で公開されています。

記

1. 名 称 京都大学白浜海の家
2. 所 在 地 和歌山県西牟婁郡白浜町
京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内
(交通機関)
JR紀勢本線「白浜駅」下車、明光バス「明光バス本社前」行きに乗車、終点で「臨海」行きバスに乗り換えて、「臨海」で下車。
3. 開設期間 通年開設
4. 室 数 和室3室
5. 収容人員 30名
6. 所要経費 1人1泊 使用料50円、ほかに食費等実費程度
7. 申込み及び利用に関する詳細
体育会事務室(西部構内総合体育館内、電話 学内2574)に照会してください。

(学生部)

